

# 石. 原 沢 遺 跡

(遺 物 編)

1997. 3

静岡県袋井市教育委員会  
袋井市役所農林課

# 石 原 沢 遺 跡

(遺 物 編)

1 9 9 7 . 3

静岡県袋井市教育委員会  
袋井市役所農林課

## 例

## 言

1. 本報告書は平成7(1995)年12月15日～平成8(1996)年3月31日の期間に、袋井市村松212-1, -22  
-23他で実施した石原沢(いしはらざわ)遺跡発掘調査事業の出土遺物報告書である。  
  
遺構等についての報告は、「石原沢遺跡Ⅰ・Ⅱ」として別に刊行されているので参照されたい。
2. 発掘調査・資料整理・報告書の執筆は永井義博(袋井市教育委員会)が担当した。
3. 本事業の農林課の担当は朝平清氏(農林課農業土木係)である。資料整理作業についても朝平氏  
  
にたいへんお世話になった。ここに記して感謝したい。
4. 発掘調査に関する事務は袋井市教育委員会生涯学習課職員が、経理事務については農林課職員が  
  
担当した。
5. 発掘資料はすべて袋井市教育委員会が保管している。

## 目 次

|                     |   |
|---------------------|---|
| 第1章 石原沢遺跡の環境 .....  | 1 |
| 第2章 H地区の遺構・遺物 ..... | 3 |
| 第3章 まとめにかえて .....   | 6 |

## 表 目 次

|                        |   |
|------------------------|---|
| 第1表 石原沢遺跡出土土器一覧表 ..... | 2 |
| 第2表 袋井市内出土土器棺集成 .....  | 4 |

## 挿 図 目 次

|                         |
|-------------------------|
| 第1図 石原沢遺跡位置図 (1/50,000) |
| 第2図 土器棺墓群出土地点 (1/2,500) |
| 第3図 H地区遺構全体図            |
| 第4図 土器棺出土状況図 (1~4号棺)    |
| 第5図 1号土器棺実測図            |
| 第6図 2号土器棺実測図            |
| 第7図 3号土器棺実測図            |
| 第8図 4号土器棺実測図            |
| 第9図 石原沢遺跡出土遺物実測図        |
| 第10図 袋井市内出土土器棺集成 (1)    |
| 第11図 袋井市内出土土器棺集成 (2)    |
| 第12図 袋井市内出土土器棺集成 (3)    |
| 第13図 袋井市内出土土器棺集成 (4)    |

# 写真図版目次

## 図版 1

- (1) 石原沢遺跡H地区全景（南より）
- (2) 調査風景（西より）

## 図版 2

- (1) 土器棺墓群に散在する弥生土器
- (2) 土器棺墓群完掘写真（北より）

## 図版 3

- (1) 石原沢土器棺墓群完掘写真（北より）

## 図版 4

- (1) 石原沢土器棺墓群完掘写真（西より）

## 図版 5

- (1) 1号土器棺完掘写真（北より）
- (2) 2号土器棺完掘写真（南より）

## 図版 6

- (1) 1号土器棺（上部欠損・北より）

## 図版 7

- (1) 2号土器棺（北より）

## 図版 8

- (1) 3号・4号土器棺（北より）
- (2) 4号土器棺（西より）

## 図版 9

- (1) 3号土器棺（北より）

## 図版10

- (1) 4号土器棺（北より）

## 図版11

- (1) 1号土器棺

## 図版12

- (1) 2号土器棺

## 図版13

- (1) 3号土器棺

## 図版14

- (1) 4号土器棺の蓋（上）と身（下）

## 図版15

- (1) 3号土器棺の蓋（蓋の底部を使用する。）
- (2) 古墳出土の埴輪片（3点とも）

## 図版16

- （参考資料）鶴松遺跡ピット7出土の土器棺

## 第1章 石原沢遺跡の環境

今回の発掘調査地点は、JR袋井駅からはるか北東に約5Km離れた袋井市村松地内の山中である。現地は掛川市との市境に位置して周辺の茶園の耕作者たちもすべて掛川市各和地区や高田地区のみなさんであった。近くの狭い農道は、袋井から掛川市北西部への抜け道として僅かな車両の通行があるのみである。現場から袋井方面は谷山に阻まれて見通しはきかないが、掛川方面は眼下に谷間の水田と民家を望むことができ、遺跡が原野谷川の流域との関連が深いことがわかる。

ところで、袋井市において本遺跡を「石原沢遺跡」と名称を決まるまでは、全ての書類には掛川市側の遺跡名である「金鉢原遺跡（かないばらいせき）」を使用していた。この金鉢原遺跡とは、1982年に掛川市教育委員会によって発行された同遺跡の調査報告書によると次の経緯があった。金鉢原遺跡は昭和40年、昭和54年の静岡県遺跡知名表には登録されていない未発見の遺跡であったが、昭和50年ころ内藤次郎氏と岩井克充氏による各和原段丘の分布調査によって発見された。さらに、各和原段丘に茶園を経営する土地所有者より茶園の改植計画がおこり、昭和56年に掛川市教育委員会により発掘調査がおこなわれ遺跡の性格が明らかになってきたのである。今回の石原沢遺跡の調査は、周知の文化財である袋井・石原沢古墳群の調査とともに、各和原段丘にひろがる掛川・金鉢原遺跡の一部が袋井市域に広がっているとの考えで発掘が計画された。

地理的環境として、遺跡の下を流れる原野谷川は掛川市北部の八高山より流れて流域に多くの解析谷や河岸段丘そして沖積地を形成しながら袋井市域を通過して太田川と合流しているが、同川右岸の和田岡では上位・中位・下位の三段にわたって段丘がみとめられる。上位の段丘は標高54～66mほどに、中位の段丘は標高51～56mほどに、下位の段丘は30～40mほどである。また、高田原においては吉岡原の中位段丘に続くもので標高41～51m内外である。そして、谷を隔てた南の各和原では上位段丘が標高43～50m内外、中位の段丘が標高34～36m内外、下位の段丘が30m内外である。今回調査された石原沢遺跡は、金鉢原遺跡と同じく上位段丘の中段からやや上に位置する立地である。

さて、歴史的環境として原野谷川流域の縄文時代～弥生時代の遺跡について見ると原野谷川右岸の吉岡地区では吉岡原上位段丘上には東原、中原、溝ノ口、吉岡原、瀬戸山、上ノ段の各遺跡等が分布し、中位の段丘上には花ノ腰、吉岡下ノ段遺跡が広範囲に分布して、下位の段丘には林、西原遺跡がある。つぎに高田原中位段丘上には女高、高田、花ノ腰の各遺跡がある。実はこれらの遺跡群は石原沢遺跡とは谷を挟んで相対峙する場所にあるため、今後遺跡立地を考える上で重要といえる。そして、高田地区南側の小沖積地を隔てて南から北に伸びる通称「各和原段丘」の掛川市域は全体が弥生時代～古墳時代前期の遺物散布地となっており、各和金鉢原、高田金鉢原遺跡等がある。そして、同段丘の袋井市域で今回調査を行った石原沢遺跡は最も奥に位置する遺跡である。古墳時代になると、この一帯には中遺地方を代表する和田岡古墳群が成立してくる。石原沢遺跡の位置する各和原段丘にも、この古墳群を代表する各和金塚古墳（前方後円墳）が5世紀に登場してくる。詳しく段丘上を確認していくと、最奥部の袋井市域には数基の円墳からなる石原沢古墳群が山中にあり、さきほどの各和金塚古墳が続き、さらに下流1Kmには掛川市域の永源寺古墳群や袋井市域の菅ヶ谷横穴群があり、さらに下って段丘が南の平野分に近くなると前方後円墳1基を含む宇佐八幡古墳群や石ノ形古墳が分布している。そして、平野部では国1バイパスの関連調査で発掘され、奈良時代の官衙遺跡として著名な坂尻遺跡に至るが、同遺跡は奈良時代の遺構の下層に古墳時代の遺構も多数検出しておりこの付近の古墳時代の集落跡では最大級の規模を持つ可能性がある。

第1表 石原沢遺跡出土土器一覧表

(単位: cm)

| 遺物<br>ナンバー | 挿図<br>ナンバー | 図版<br>ナンバー | 出土遺構名<br>出土層位名 | 器 高<br>() 現在高 | 口 径<br>() は復元 | 胴部最大<br>() は復元 | 底 径<br>() は復元 | 備 考     |
|------------|------------|------------|----------------|---------------|---------------|----------------|---------------|---------|
| 1          | 5          | 11         | 1号土器棺          | (30.0)        | —             | 42.2           | 8.8           | 大型壺(欠損) |
| 2          | 5          | 12         | 2号土器棺          | 68.0          | 26.0          | 51.5           | 6.2           | 大型壺(完形) |
| 3-1        | 7          | 15の上       | 3号土器棺          | (8.5)         | —             | —              | 9.4           | 壺(底部のみ) |
| 3-2        | 7          | 13         | ◇              | 61.8          | 29.4          | 58.0           | 16.6          | 大型壺(完形) |
| 4-1        | 7          | 14の上       | 4号土器棺          | 25.2          | 27.2          | 29.4           | 6.0           | 甕(合口)   |
| 4-2        | 8          | 14の下       | ◇              | (42.0)        | —             | 45.2           | 7.2           | 壺(上部欠損) |
| 5          | 9          | —          | H地区出土          | (7.0)         | —             | —              | —             | 壺(頸部)   |
| 6          | 9          | —          | D地区出土          | (8.4)         | (32.2)        | —              | —             | 高坏・坏部   |
| 7          | 9          | —          | H地区出土          | (6.0)         | —             | 11.6           | 5.2           | 小型壺(欠損) |
| 8          | 9          | —          | 3号棺周辺          | (3.8)         | (18.0)        | —              | —             | 壺口縁破片   |
| 9          | 9          | —          | D地区出土          | (6.4)         | (19.6)        | —              | —             | 高坏・坏部   |
| 10         | 9          | —          | ◇              | (6.4)         | —             | —              | —             | 高坏・脚部   |
| 11         | 9          | —          | H地区出土          | (2.2)         | —             | —              | (4.0)         | 小型壺(底部) |
| 12         | 9          | —          | ◇              | (2.8)         | —             | —              | (5.6)         | 小型壺(底部) |
| 13         | 9          | —          | D地区出土          | (2.5)         | —             | —              | (6.2)         | 小型壺(底部) |
| 14         | 9          | —          | ◇              | (5.0)         | —             | —              | (5.8)         | 小型壺(底部) |
| 15         | —          | 15の2       | H地区古墳          | —             | —             | —              | —             | 埴輪小片3点  |

## 第2章 H地区の遺構・遺物

今回の調査地は、段丘東端の山林部をモデル集落農道建設予定地のルートに沿って幅約7m、全長約250mで設定された範囲である。予定地は事前に試掘調査が行われていなかったため遺跡の所在が推定できる地点にまず試掘用のトレンチを入れ遺構・遺物の有無を確認してから拡張し平面調査に入った。ここでは、土器墓群を検出したH地点のみ改めて記述する。H地区は、丘陵頂部のため重機を入れることができなかったのですべて作業員の手により表土の除去を行った。頂部に近い古墳状の高まりの付近の表土下層より約5cm四方の埴輪破片が2点出土した。しかし、古墳時代関連の遺物はこれだけでありその他の土器等は出土しなかった。頂部では現存する長さ2.7m、幅75cmの長方形の土壇状の落ち込みが確認され、これが古墳の主体部になるのかもしれない。

**散在する祭祀遺物** 古墳の北側のマウンド状の高まりの周辺では4基の大型の土器墓群が検出された。そして、これらの土器墓を覆うかのように細片となった高<sup>4</sup>や小型の壺形土器が散在していた。この丘陵先端では土器棺の埋納後に墓前で祭祀が行われた可能性も考えられる。ただし、この土器がどの土器棺に伴うものなのかは確認できていない。

**1号土器棺** 土器墓群の中ではいちばん西側に位置する。棺は縦置きに埋葬後、風雨による地表の変化を受けて壺形土器の上部はすでに斜めに欠損している。器面の調整痕は剥落が激しく外面下部にハケ痕が若干確認できるのみである。1号・2号の土器棺は3号・4号の土器棺と比較するとマウンド状の高まりの端に位置し深さもやや浅い場所である。

**2号土器棺** 丘陵上部のマウンド状の高まりの中では高い位置に埋葬された比較的大型の壺形土器で、いわゆる無花果形の器形である。この壺の法量は全高68cm、口径26cm、底径6.2cm、胴部最大径51.5cmで胎土は黄灰色で粗い土である。土器の調整痕は剥落が激しくて確認しにくい、口縁部にはヘラ状工具による斜め方向の沈線と、肩部に櫛状工具による刺突痕を巡らせている。遺物出土時の状況から、この壺は頸部下方で口縁部を打ち欠いて被葬者を埋葬した後、4枚の破片になった同壺の口縁部を重ね合わせて蓋としている。壺は埋葬穴の中でやや傾いた状況で検出された。

**3号土器棺** 4号土器棺と並ぶように埋葬された大型の壺形土器である。2号棺に比べて口径がやや広いにもかかわらず口縁部は大きな欠損もなく、別の壺形土器の底部を蓋にしている。この壺の法量は全高61.8cm、口径29.4cm、頸径15cm、胴部最大径58cmで胎土は黄灰色で粗い土である。土器の調整痕は口縁部内側には2列に縄文を配し、壺肩部には櫛状工具による刺突文が方向を違えて3段に施してある。全体のプロポーションの特徴としては、いわゆる算盤珠形の形状をしている。

**4号土器棺** 頸部から上を打ち欠いて棺本体として使用された大型の壺形土器と、蓋として使用された高台を持たない甕形土器の組み合わせにより構成されている。棺本体となった壺の法量は全高42cm、打ち欠いた状態で口径20cm、底径7.2cm、胴部最大径45.2cmで胎土は黄褐色で粗い土で、蓋となった甕形土器の法量は全高25.2cm、口径27.2cm、底径6cm、胴部最大径29.4cmで胎土は黄褐色である。ともに内外面とも剥落が激しく、器面の調整痕は確認しにくい壺形土器の肩部にわずかに櫛状工具による刺突痕がわずかに残る。遺跡の付近の土質は赤褐色の砂礫で、遺構を掘った後も雨風で簡単に崩れていくほどろい土であるため土壇の掘り方もはっきり分らない状態であった。そんな手探りの状況では3号・4号の土器棺も同一遺構内がまたは別の遺構が重複しているのかさえ不明であった。つまり現状では3号・4号土器棺の新旧関係は残念ながら正確につかめていない。

第2表 袋井市内出土土器棺集成

(土器棺実測図は第10図～第13図を参照。)

| No | 遺跡名    | 遺構名      | 埋葬施設の概要 |      | 備考           | 主な参考文献・引用文献                            |
|----|--------|----------|---------|------|--------------|----------------------------------------|
|    |        |          | 棺の種類    | 出土状況 |              |                                        |
|    |        |          | 棺       | 蓋    |              |                                        |
| 1  | 鶴松遺跡Ⅱ  | ピット7     | 広口蓋     | 横置き  | 弥生中期中葉       | 袋井市教育委員会1987「鶴松遺跡Ⅱ」                    |
| 2  | 石原沢遺跡  | 1号土器棺    | 蓋       | 縦置き  | 弥生時代後期前半     | 袋井市教育委員会「石原沢遺跡Ⅰ・Ⅱ」                     |
|    |        | 2号土器棺    | 蓋       | 縦置き  | 〃            |                                        |
|    |        | 3号土器棺    | 蓋       | 縦置き  | 〃            |                                        |
|    |        | 4号土器棺    | 蓋       | 縦置き  | 〃            |                                        |
| 3  | 若作遺跡   | D地区土器棺墓  | 蓋       | 高江   | 弥生後期前半       | 袋井市教育委員会1990「若作遺跡 若作古墳群」               |
| 4  | 栗野向山遺跡 | 1号(仮称)   | 蓋       | 未発表  | 弥生中期後半       | 吉岡伸夫他1987「静岡県愛野向山遺跡」『日本考古学年報38』日本考古学協会 |
|    |        | 2号(仮称)   | 蓋       | 未発表  | 〃            |                                        |
|    |        | 3号(仮称)   | 蓋破片     | 未発表  | 〃            |                                        |
|    |        | 4号(仮称)   | 蓋破片     | 未発表  | 〃            |                                        |
|    |        | 5号(仮称)   | 蓋破片     | 未発表  | 〃            |                                        |
|    |        | 6号(仮称)   | 台付頸     | 未発表  | 〃            |                                        |
| 5  | 地藏ヶ谷遺跡 |          | 蓋       | 不明   | 不明           | 向坂鋼二1989「静岡県下の土器棺」『静岡県博物館協会研究紀要』13     |
| 6  | 井守塚遺跡  |          | 蓋       | 縦置き  | 弥生後期前半       | 袋井市教育委員会1996「井守塚古墳群」                   |
| 7  | 大門遺跡   |          | 蓋       | 横置き  | 弥生後期前半       | 袋井市教育委員会1983「大門遺跡 第2次調査発掘報告書」          |
| 8  | 狐塚遺跡   | YH003土器棺 | 広口蓋     | 縦置き  | 弥生中期中葉       | 狐塚古墳発掘調査委員会1976「狐塚遺跡発掘調査概報」(未刊行資料)     |
|    |        | YH005土器棺 | 台付頸     | 横置き  | 〃            |                                        |
| 9  | 樹之上遺跡  | SX2      | 蓋       | 横置き  | 弥生後期・大型埴輪部破片 | 袋井市教育委員会1983「樹之上遺跡Ⅱ」                   |
| 10 | 谷ヌ遺跡   | 1号棺(仮称)  | 蓋       | 不明   | 弥生後期前半       | 柴田登1987「浅羽町史 資料編一 考古・古代・中世」浅羽町史編さん委員会  |
|    |        | 2号棺(仮称)  | 蓋       | 高江   | 不明           |                                        |

|    |        |          |   |     |     |               |  |                           |
|----|--------|----------|---|-----|-----|---------------|--|---------------------------|
| 11 | 田子塚遺跡  | SP 3 土器棺 | 壺 | —   | 横置き | 弥生時代後期前半      |  | 釜井市教育委員会1992『田子塚遺跡 一資料編一』 |
|    |        | SP 4 土器棺 | 壺 | —   | 横置き | 〃             |  |                           |
|    |        | SP 5 土器棺 | 壺 | —   | 横置き | 〃             |  |                           |
| 12 | 高尾向山遺跡 | 1号土器棺    | 壺 | 蓋   | 横置き | 弥生後期前半        |  | 釜井市教育委員会1996『高尾向山遺跡Ⅱ』     |
|    |        | 2号土器棺    | 壺 | —   | 斜置き | 弥生後期前半        |  |                           |
|    |        | 3号土器棺    | 壺 | 蓋   | 斜置き | 弥生後期前半        |  |                           |
|    |        | 4号土器棺    | 壺 | —   | 横置き | 後期後半(新)       |  |                           |
|    |        | 5号土器棺    | 壺 | 蓋   | 横置き | 後期後半(古)       |  |                           |
|    |        | 6号土器棺    | 壺 | —   | 横置き | 後期後半(古)       |  |                           |
|    |        | 7号土器棺    | 壺 | —   | 横置き | 弥生後期前半        |  |                           |
|    |        | 8号土器棺    | 壺 | 蓋   | 横置き | 後期後半(新)       |  |                           |
|    |        | 9号土器棺    | 壺 | 頸   | 横置き | 弥生後期前半        |  |                           |
|    |        | 10号土器棺   | 壺 | 蓋   | 横置き | 弥生後期前半        |  |                           |
|    |        | 11号土器棺   | 壺 | 蓋   | 斜置き | 後期後半(古)       |  |                           |
|    |        | 12号土器棺   | 壺 | 蓋   | 横置き | 後期後半(新)       |  |                           |
|    |        | 13号土器棺   | 壺 | 蓋   | 横置き | 弥生後期前半        |  |                           |
|    |        | 14号土器棺   | 壺 | 蓋   | 横置き | 後期後半(新)       |  |                           |
|    |        | 15号土器棺   | 壺 | 蓋   | 横置き | 弥生後期前半        |  |                           |
|    |        | 16号土器棺   | 壺 | 蓋   | 横置き | 後期後半(新)       |  |                           |
|    |        | 17号土器棺   | 壺 | 高 杯 | 横置き | 後期後半(古)       |  |                           |
|    |        | 18号土器棺   | 壺 | —   | 横置き | 後期後半(新)       |  |                           |
|    |        | 19号土器棺   | 壺 | —   | 横置き | 弥生後期前半・9号棺に類似 |  |                           |
|    |        | 20号土器棺   | 壺 | —   | 横置き | 後期後半(新)       |  |                           |
|    |        | 21号土器棺   | 壺 | —   | 横置き | 弥生後期前半        |  |                           |

### 第3章 まとめにかえて

#### 1. 石原沢遺跡について

袋井・掛川市境であり、各和原段丘上のいちばん奥に位置したここ石原沢遺跡や金銅原遺跡（掛川市）についてはいまだ研究者の間でもほとんど知られていなかった。しかし、『静岡県史』の中で向坂綱二氏が弥生時代の掘立柱建物跡の紹介の項で静岡県内でも著名な伊場遺跡や登呂遺跡などと伍して金銅原遺跡に注目をされていた。この中では、弥生時代後期に登場する集落跡の中の掘立柱建物跡に注目して、特に弥生時代の発展期の遺跡の特徴である高床式倉庫を例にとりて解説している。ここでは、1柱間×2柱間、または1柱間×3柱間の形態を示すのが一般的で、梁行は広狭にかかわらず1間になるのが弥生時代の特徴であると述べている（1994向坂綱二「第1編第3章 第2節 米作りのムラ」『静岡県史 通史編1』静岡県）。

当初、袋井市がこの地区を発掘調査をする目的の1つには遺跡地図に表記されている2基の前方後円墳の有無の確認にあったが、農道のルートが古墳の位置よりもやや東に外れたため古墳があることは確認できたがたして前方後円墳がどうかの墳形までは確認できなかった。今後は道路の開通に伴っての周辺開発に注意をしなければならない。

さて、H地区の丘陵上より発見された弥生時代後期前半の土器棺墓群についてはまったくの新発見であった。4基とも器種と組み合わせが異なる土器棺で、またこれだけの狭い場所に集中して出土することは希有な例と言えるだろう。このH地区の場所は開けた平野部を望むには最後の場所であり、各和原段丘上で生活していた、また原野谷川流域で生活していた人々にとっても、まさに「奥都城」と呼ぶにふさわしい立地であろう。ただし、H地区西側にもやや平坦地（今回の調査範囲外）があるため、この部分にさらに多くの土器棺墓が存在する可能性も十分考えられる。

#### 2. 土器棺のいわゆる「口徑」部分について

発掘された大型の甕形の土器が埋葬を目的とする「土器棺」であったと考える場合、土器に被葬者を埋葬するための18cm前後の「口」の大きさが問題になると考えられる。本書の第10図で袋井市内出土の土器棺集成を掲載したが、ここからは次の事が抽出できる。

まず、鶴松遺跡出土の弥生時代中期中葉と考えられている土器棺は小土竈内に横位置に置かれていたが、出土状況より土器の肩部付近で一度割られて被葬者を埋納して再び重ねあわせて土竈内に埋葬されたものでここで求めている土器本体の実測図の内径 9.6cmは土器棺の口として引用できないことが本書の写真図版16の（参考資料）からわかる。

つぎに、市内出土の弥生時代後期前半の土器棺の内径では、井守塚遺跡18.8cm、若作遺跡21.2cm、谷坂遺跡1号21.2cm、谷坂遺跡2号22.0cmで比較的数値が接近しているのがわかる。また、大量の土器棺を出土している高尾向山遺跡のものでは、すでに発掘時点で内径の計測不可能の土器棺は高尾向山1、2、4、7、19の土器棺を除くと、口部にあたる部分の内径は高尾向山3=18.0cm、高尾向山5=18.0cm、高尾向山6=22.8cm、高尾向山8=12.0cm、高尾向山9=12.0cm、高尾向山10=18.8cm、高尾向山11=15.2cm、高尾向山12=9.2cm、高尾向山13=38.0cm、高尾向山14=18.0cm、高尾向山15=24.8cm、高尾向山16=23.6cm、高尾向山17=29.2cm、高尾向山18=11.2cm、高尾向山20=20.4cm、高尾向山21=25.2cmを計ることができる。これらの計測値から土器棺の口部の内径11.2~12.0cmの比較的狭いグループ（A）と内径18.0~25.2cmの口部の広いグループ（B）の2つに

分布が集中することがわかった。また、内径の広いグループ（B）よりさらに大きな土器棺もあるがこれは特に問題にはならない。ところが、ここで被葬者を入れる場合、内径の狭いグループ（A）についてはいくつかの問題があるため、報告書より土器棺実測図のみではなく出土状況図や出土状況写真から検討してみる。すると、口径の狭いグループ（A）の壺形の土器棺では身にあたる壺形土器の一部を削って被葬者を入れた痕跡が見られた。つまり、高尾向山遺跡の土器棺の内径の狭いものは、いわゆるここを入り口としていないことがわかる。そして、例えばこの身になる土器棺に蓋となる土器が付属していても身になる壺形土器の胴部を打ち欠いた状況が推定できるのであった。そしてこれらの場合、蓋となる土器は、身となる土器へ被葬者を埋納するための「棺の入り口」を覆うのではなく、身となる土器棺の壺の頸部に残ってしまう穴を塞ぐための蓋形の土器破片と考えれば納得がいくと思われる。

さて、肝心の石原沢遺跡の土器棺の内径は、石原沢1号棺は上部を欠損しているため計測不能であるが、石原沢2号棺=12.4cm、石原沢3号棺=14cm、石原沢4号棺=17.0cmを計る。このうち、2号棺と3号棺は壺形土器の狭い頸部を打ち欠いて広げ、被葬者を納め易くしてあるので土器実測図の12.4～14.0cmの数値を「棺の入り口」の大きさと考えることはできない。しかし、4号棺の数値は壺の肩上部を打ち欠いた大きさの数値であるためいわゆる「棺の入り口」としては他の遺跡の数値よりやや小さいが最低でも約17.0cmが必要であると言える。以上の棺の入り口の数値の比較からいっても土器棺墓の被葬者としては乳幼児といっても生まれて間もないものか、または死産の場合の特に小さな遺体の埋葬に使用された可能性を考えることができる。

### 3. 「再生」を願う土器棺墓での葬制

静岡県内の土器棺墓は弥生時代中期中葉に登場するが、弥生時代後期前半になると増加する傾向になり、弥生時代後期の後半には急激な減少傾向を示すようになる比較的短期間の墓制であるといえる。このうち土器棺のピーク時に埋葬が行われた本遺跡の土器棺は、弥生時代後期前半の大型でどっしりした造りのものである。日常生活ではあまり使用されない埋葬専用ともいえる大きさである。例えば、縄文時代の土偶やビーナス像が女性（妊産婦）を連想させると同じように、これらの土器棺用の大型壺のプロポーションは「無花果形」や「算盤珠形」の豊満な形態である。

一般的に、最近の各種の自然科学的分析により土器棺は乳幼児が埋葬された可能性が大きいと言われている。これらから言えば、まさにこれらの大型の壺形土器は、妊産婦＝母性を連想させる形態であると結びつけることもできる訳であるから、死んだ子供の再生を願ってその亡骸を妊娠中の女性をイメージする大型の壺の中に埋葬したのかもしれないと考えることもできる。土器棺の埋葬形態も弥生時代後期前半の土器棺は比較的縦位置での埋葬が多く、斜め方向の位置も縦位置と考えれば大型壺の形状により女性を意識させる埋葬方法のためにわざわざ深く大きな穴を掘る必然性があったとも言えるだろう。そして埋葬された人物像（子供）としては、この地域全体から見れば小数派のこの埋葬方法は、当然この社会での指導的立場の人物の後継者であることは想像できることであろう。これら土器棺墓の埋葬は、単なる土壌墓や方形周溝墓への被葬者たちとの比較検討も加えて検討をすることになるが今後の調査でもこの特殊性は注目しつづける必要があると思われる。

さて事実、当時の社会状況や風俗習慣を知る手立ては現代の私たちにほとんどない。そこで、考古学を学ぶ者が古代社会を語ると大きな過ちを犯す場合が多い。私の記したことも作り話の範疇を抜け出すことはできないかもしれないが、こんな試みもおもしろいかとご容赦願いたい。

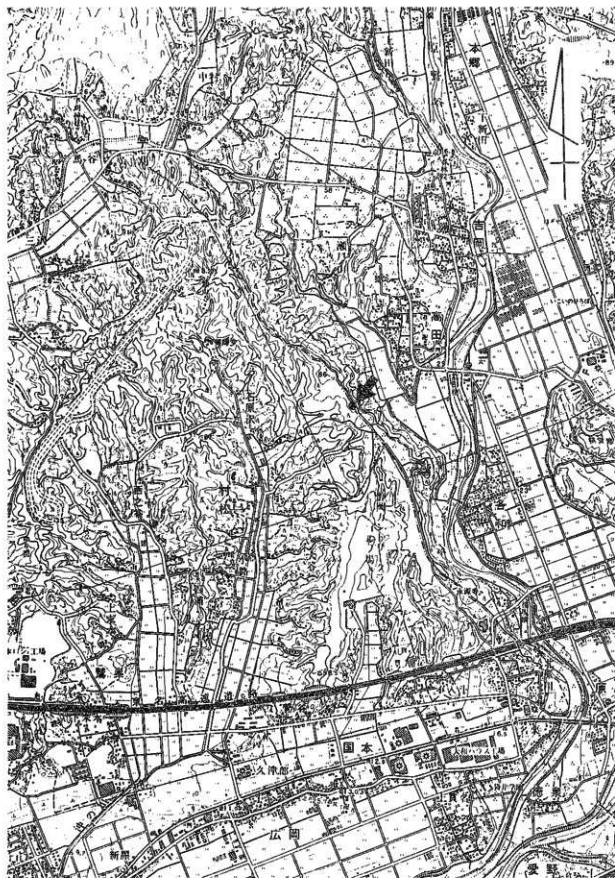
最後に、土器棺墓とは直接の関係はないが、「記 紀」の世界や伝承等の中でも多数の死産児・未熟児の記述がある。この中では後継者を失った権力者たちの運命までも変えてしまう場面が多々登場してくる。もちろん直接に結びつけることはできないが弥生社会においても、ムラ単位の集団にとっても幼い後継者の死は大きな問題であっただろうと、北風の吹き付ける石原沢遺跡の発掘現場で土器棺を掘りながらふと思ひ出したのであった。

(袋井市教育委員会 永井義博)

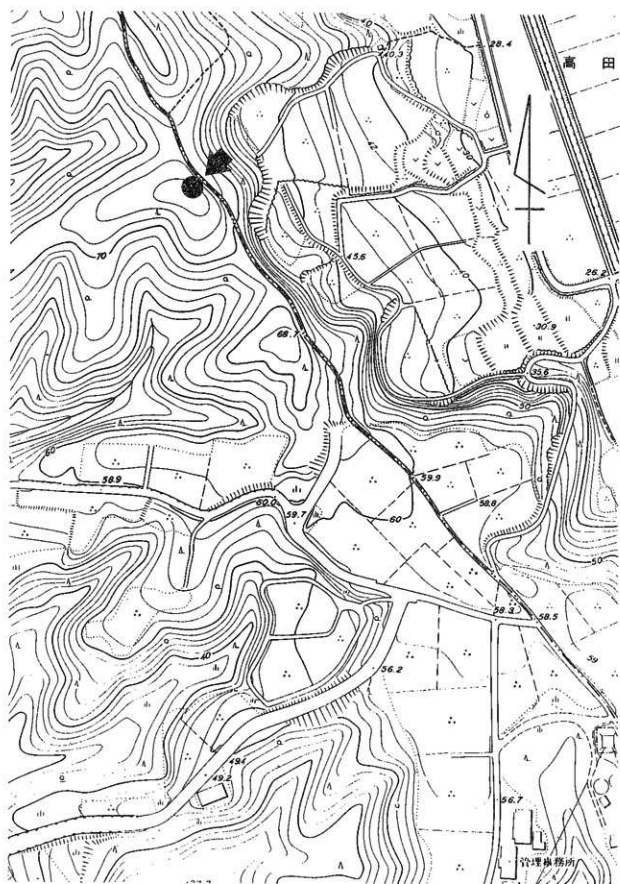
(参考文献・引用文献)

- 1977 遠江考古学研究会 『静岡カントリークラブ袋井ゴルフ場建設工事への提言』  
一 陣屋内・浅間裏・陣屋北・久野山・東山遺跡試掘調査報告一
- 1978 掛川市教育委員会 『金塚古墳』 高圧電線鉄塔改修に伴う発掘調査報告
- 1981 掛川市教育委員会 『各和金塚古墳』 測量調査報告書
- 1982 掛川市教育委員会 『金鎗原遺跡』 発掘調査概報
- 1982 掛川市教育委員会 『中原遺跡』 発掘調査概報
- 1983 袋井市役所 『袋井市史』 通史編
- 1983 掛川市教育委員会 『行人塚遺跡』 発掘調査概報
- 1985 掛川市教育委員会 『女高遺跡』 発掘調査概報
- 1988 森町教育委員会 『十王山髻跡発掘調査報告書・善千鳥遺跡確認調査報告書』  
一中遠地区広域営農団地農道開設工事に伴う発掘調査報告書一
- 1988 掛川市教育委員会 『高田遺跡』 発掘調査概報
- 1987 浅羽町史編纂委員会 『浅羽町史 資料編1』 考古・古代・中世
- 1987 袋井市教育委員会 『鶴松遺跡Ⅱ』
- 1997 袋井市教育委員会 『石原沢遺跡Ⅰ・Ⅱ』
- 1990 袋井市教育委員会 『若作遺跡 若作古墳群』
- 1987 吉岡伸夫、松井一明 『静岡県愛野向山遺跡』 『日本考古学年報38』 日本考古学協会
- 1989 向坂鋼二 『静岡県下の土器棺』 『静岡県図書館協会研究紀要』 13
- 1996 袋井市教育委員会 『井守塚古墳群』
- 1983 袋井市教育委員会 『大門遺跡 第2次調査発掘報告書』
- 1976 狐塚古墳発掘調査委員会 『狐塚遺跡発掘調査概報』 (内部資料)
- 1983 袋井市教育委員会 『掛の上遺跡Ⅱ』
- 1992 袋井市教育委員会 『団子塚遺跡 一資料編一』
- 1990 袋井市教育委員会他 『高尾向山遺跡』
- 1996 袋井市教育委員会 『高尾向山遺跡Ⅱ』

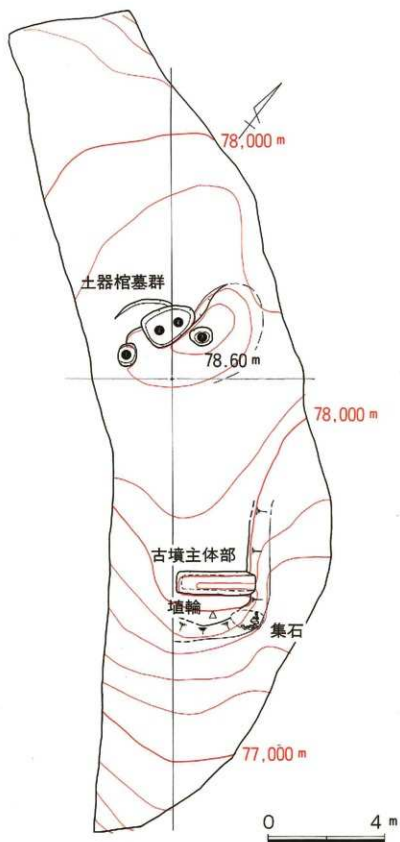
# 插图



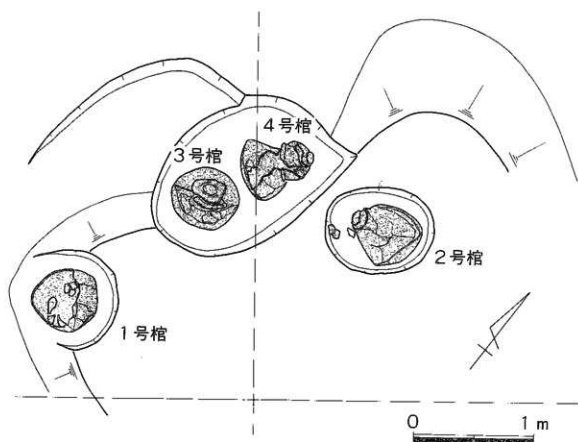
第1図 石原沢遺跡位置図 (1/25,000)



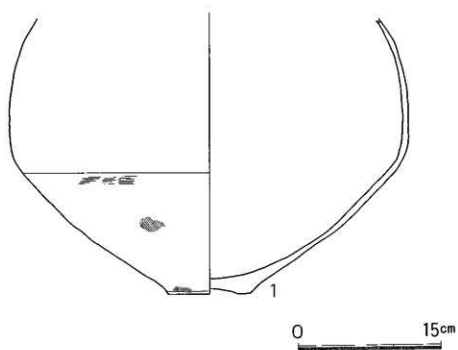
第2図 土器棺墓群出土地点 (1/2,500)



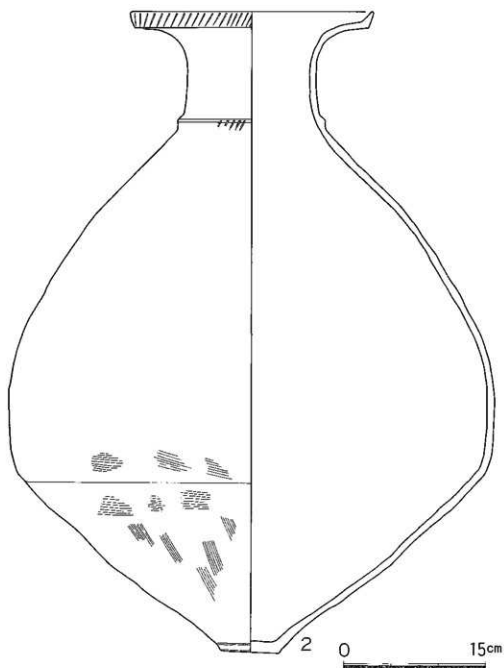
第3図 H地区遺構全体図



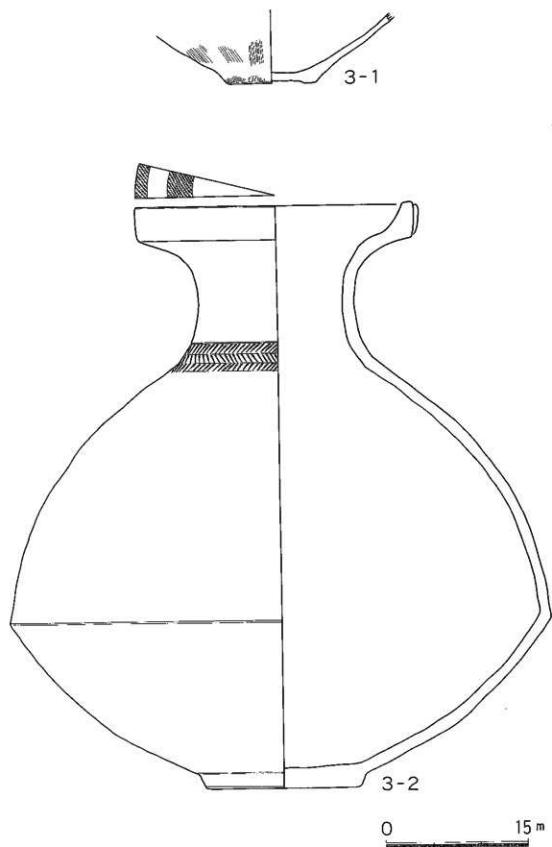
第4図 土器棺出土状況図（1～4号棺）



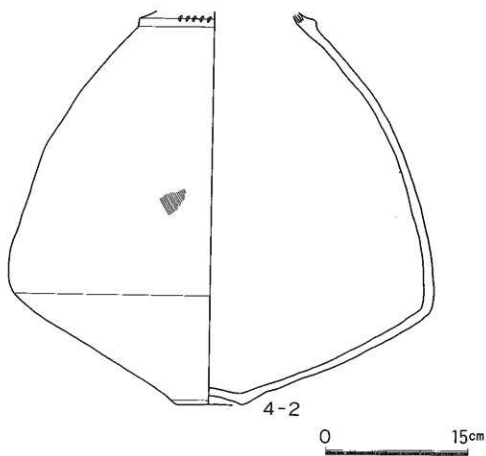
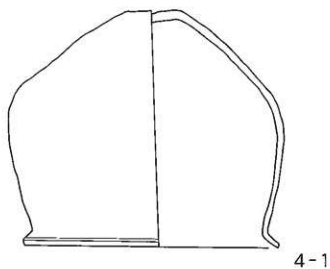
第5図 1号土器棺実測図



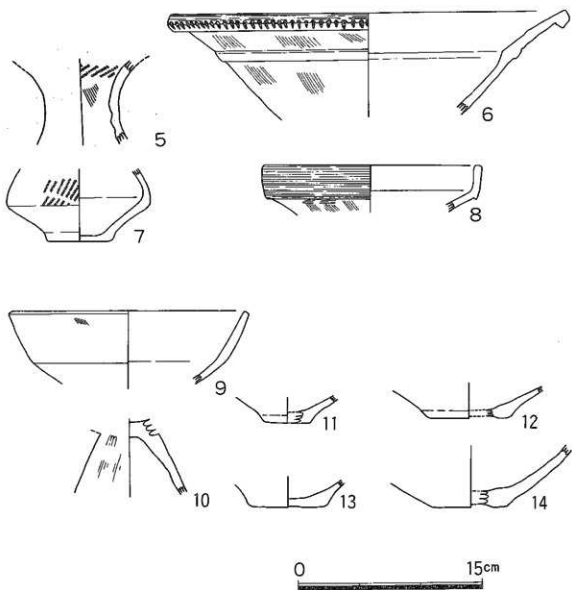
第6图 2号土器棺实测图



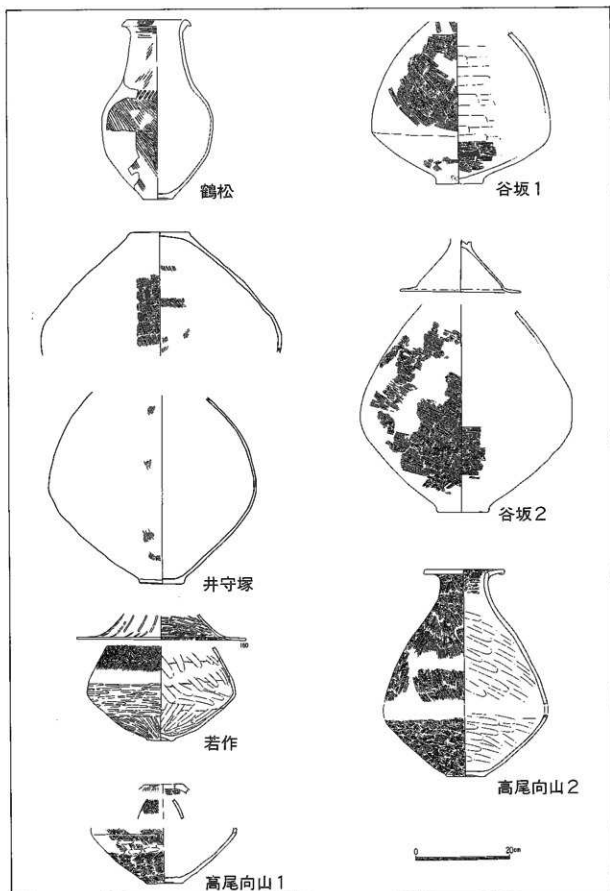
第7图 3号土器棺实测图



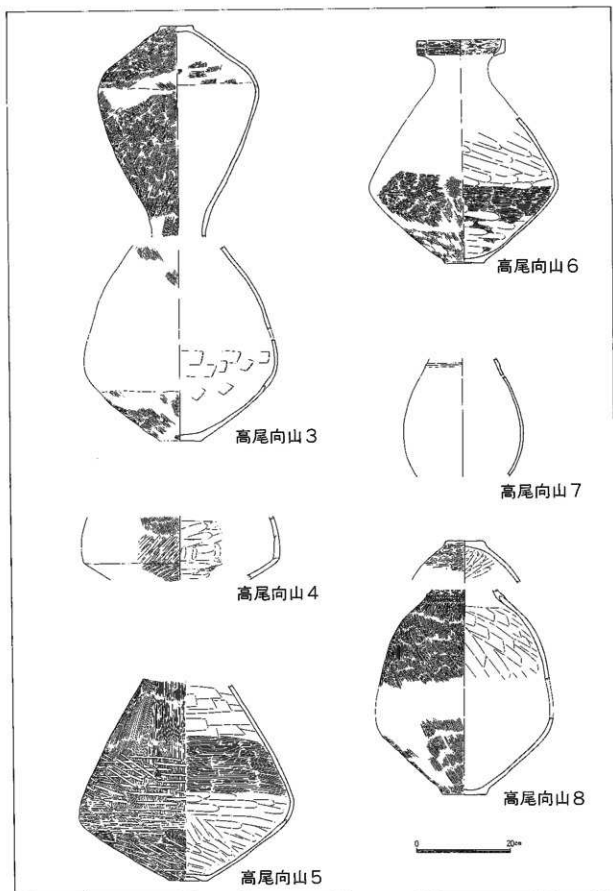
第8图 4号土器棺实测图



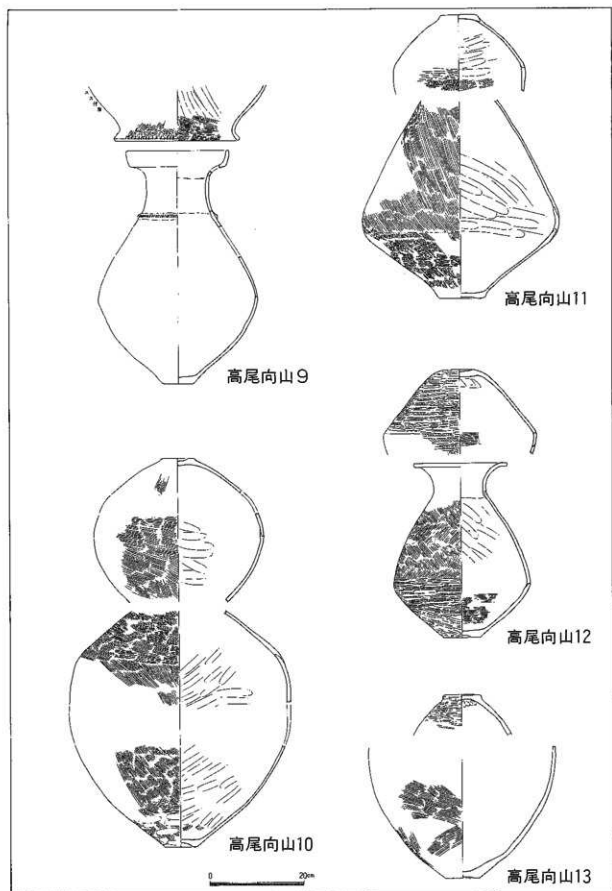
第9図 石原沢遺跡出土遺物実測図



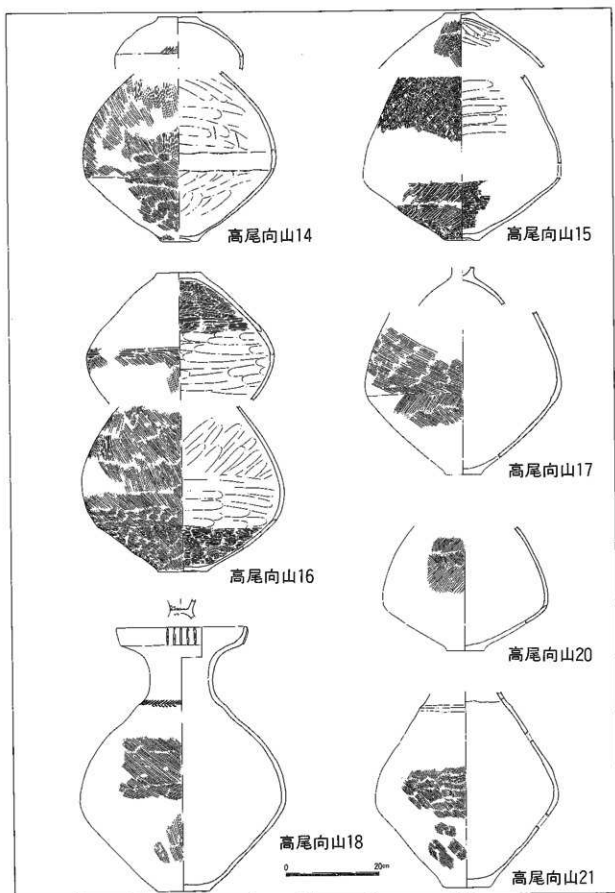
第10図 袋井市内出土土器集成 (1)



第11図 袋井市内出土土器集成 (2)



第12図 袋井市内出土土器集成 (3)



第13図 袋井市内出土土器棺集成 (4)

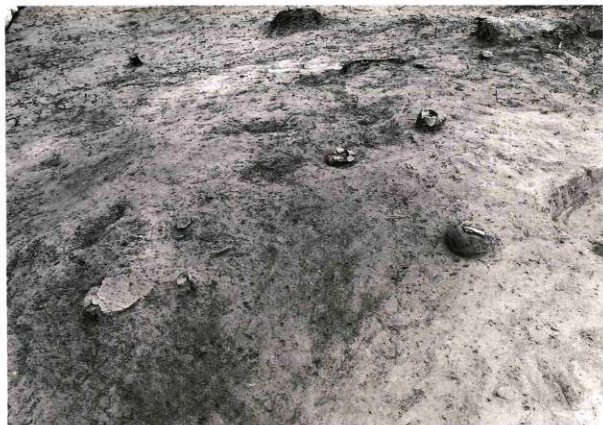
# 写真



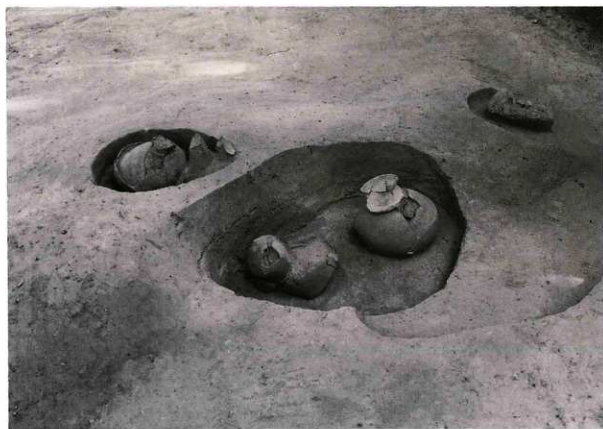
(1) 石原沢遺跡 H地区全景 (南より)



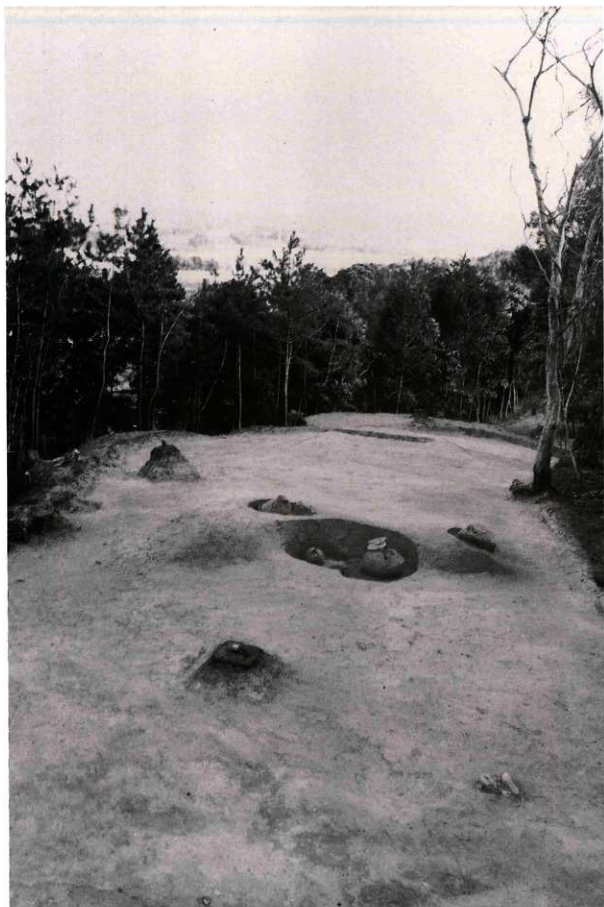
(2) 調査風景 (西より)



(1) 土器棺墓群に散在する弥生土器



(2) 土器棺墓群 完掘写真（北より）



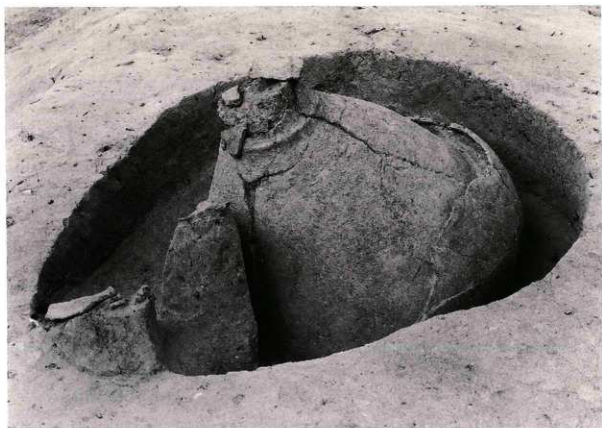
(1) 石原沢土器棺墓群 完掘写真(北より)



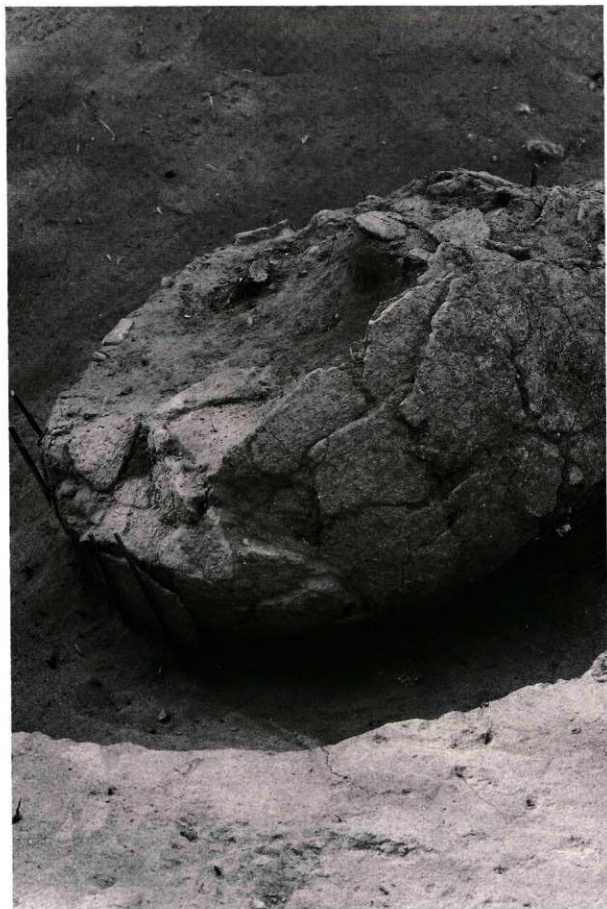
(1) 石原沢土器棺墓群 完掘写真（西より）



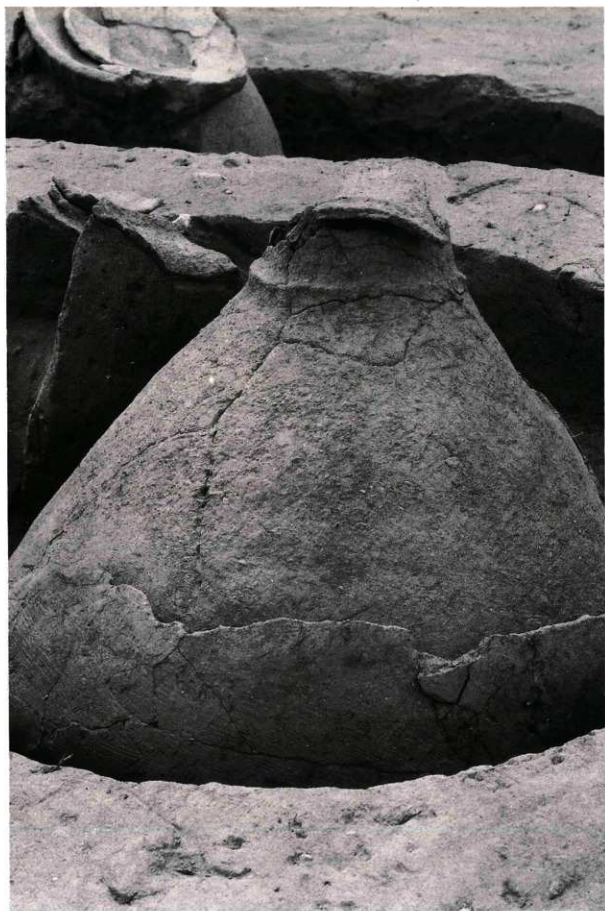
(1) 1号土器棺 完掘写真(北より)



(2) 2号土器棺 完掘写真(南より)



(1) 1号土器棺 (上部欠損・北より)



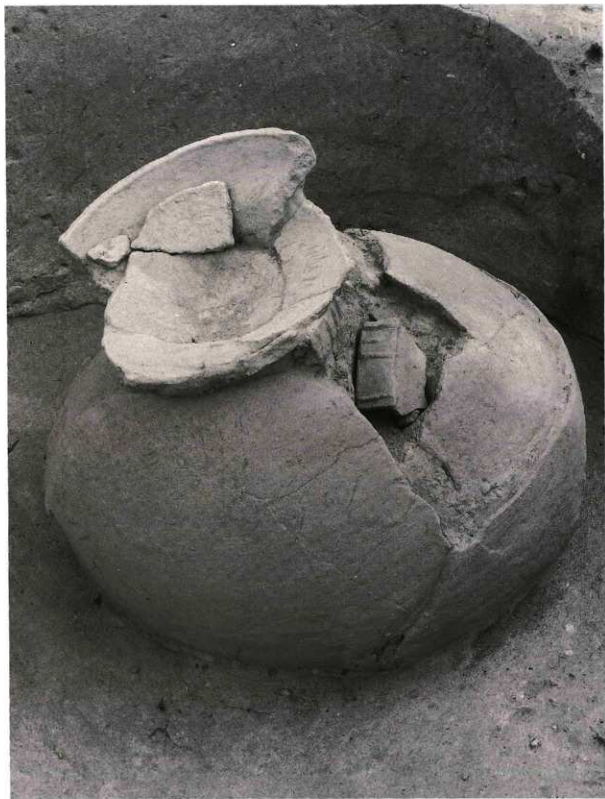
(2) 2号土器棺 (北より)



(1) 3号・4号土器棺（北より）



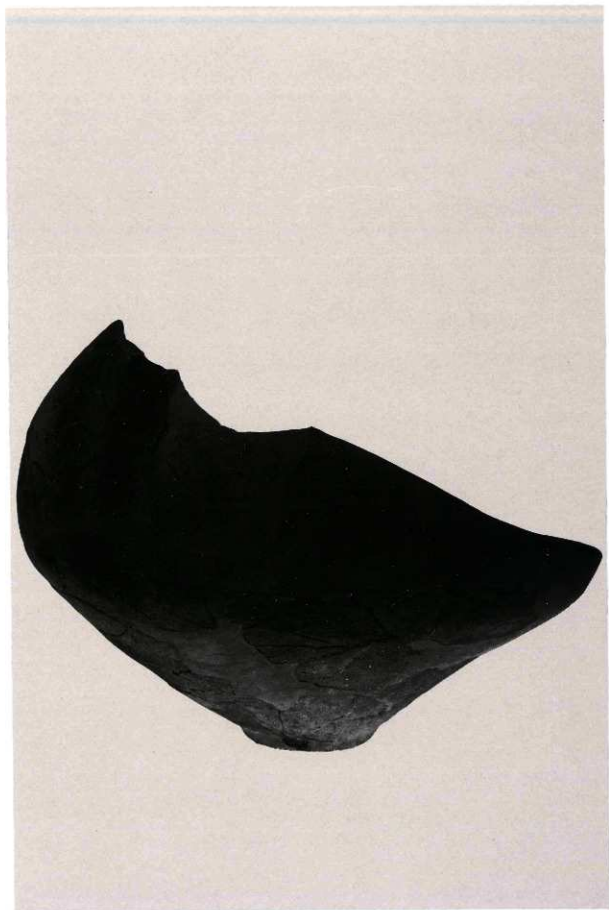
(2) 4号土器棺（西より）



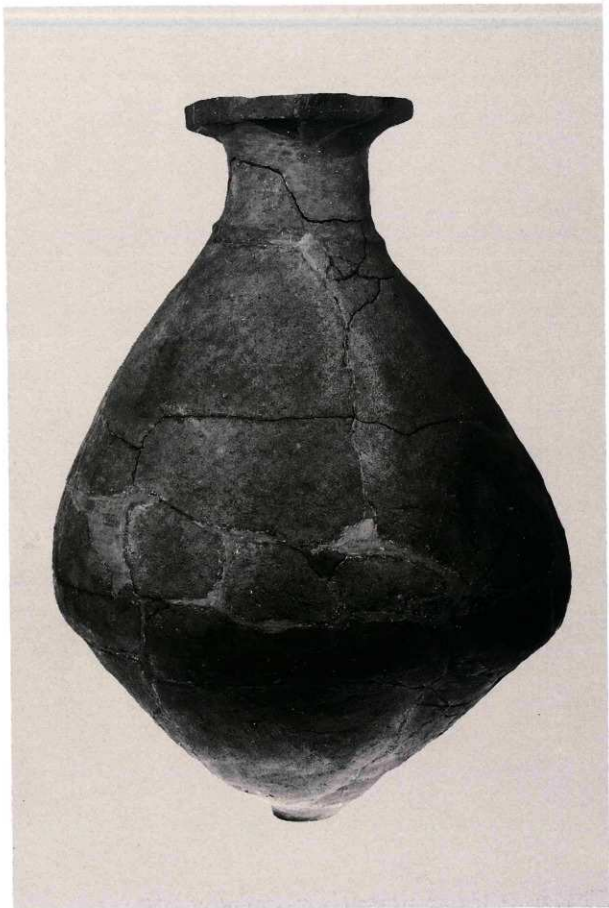
(1) 3号土器棺 (北より)



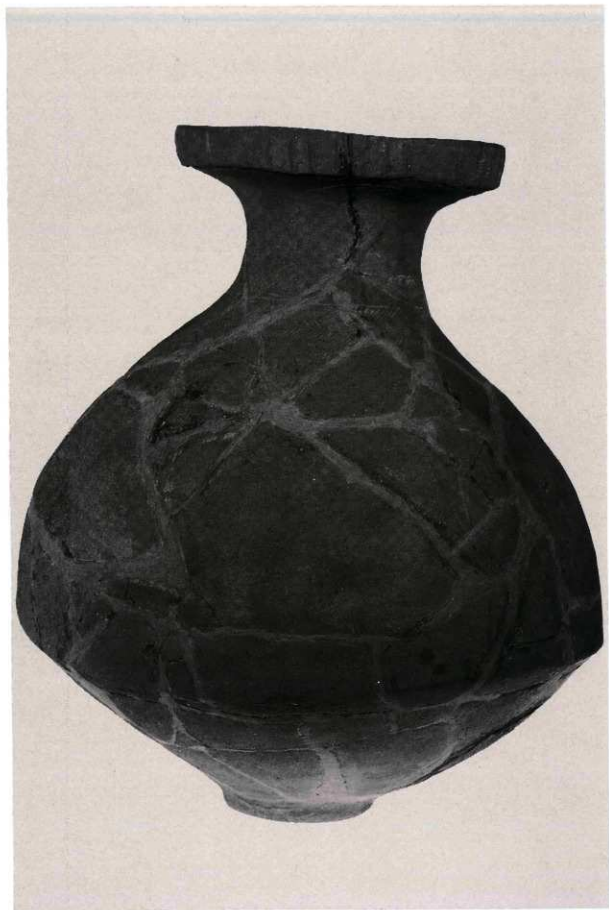
(1) 4号土器棺(北より)



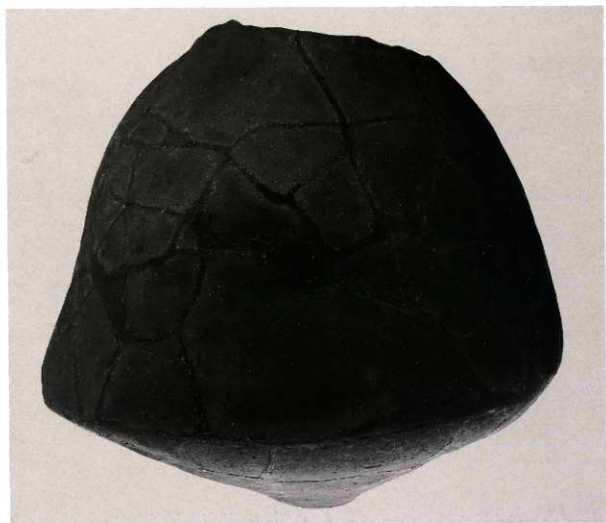
(1) 1号土器棺



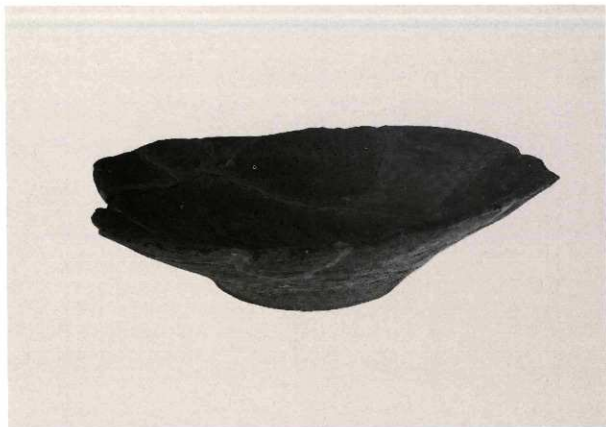
(1) 2号土器棺



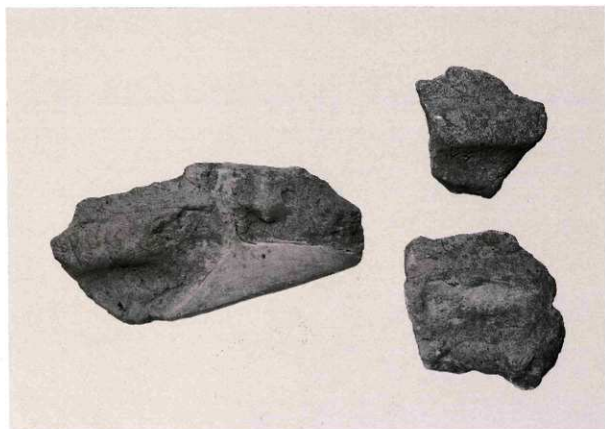
(1) 3号土器棺



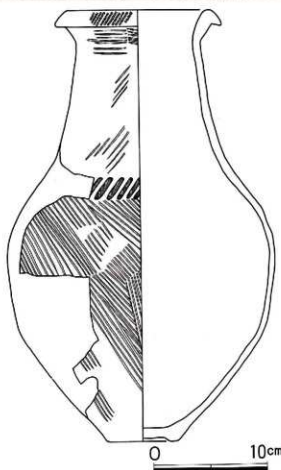
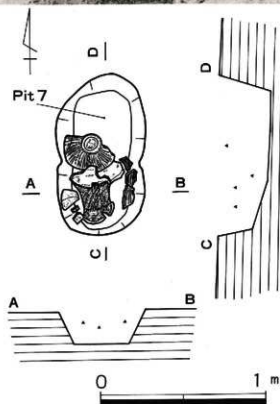
(1) 4号土器棺の蓋(上)と身(下)



(1) 3号土器棺の蓋（壺の底部を使用する）



(2) 古墳出土の埴輪片（3点とも）



(参考資料)  
鶴松遺跡ピット7出土の土器棺

# 報 告 書 抄 録

| ふ り が な            |                                                                                 | いしはらざわいせき                                    |                           |                        |                    |                                                                                                                                                                             |                                              |                                 |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|---------------------------|------------------------|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|---------------------------------|
| 書 名                |                                                                                 | 石原沢遺跡                                        |                           |                        |                    |                                                                                                                                                                             |                                              |                                 |
| 副 書 名              |                                                                                 | (遺物編)                                        |                           |                        |                    |                                                                                                                                                                             |                                              |                                 |
| 編 集 者 名            |                                                                                 | 永 井 義 博                                      |                           |                        |                    |                                                                                                                                                                             |                                              |                                 |
| 編 集 機 関            |                                                                                 | 袋井市教育委員会                                     |                           |                        |                    |                                                                                                                                                                             |                                              |                                 |
| 所 在 地              |                                                                                 | 〒437 静岡県袋井市新屋一丁目1番地の1<br>TEL0538-44-3141(直通) |                           |                        |                    |                                                                                                                                                                             |                                              |                                 |
| 発 行 年 月 日          |                                                                                 | 1997年3月31日                                   |                           |                        |                    |                                                                                                                                                                             |                                              |                                 |
| ふ り が な<br>所収遺跡名   | ふ り が な<br>所 在 地                                                                | コ ー ド                                        |                           | 北 緯<br>° ' "           | 東 経<br>° ' "       | 調査期間                                                                                                                                                                        | 調査面積<br>(㎡)                                  | 調 査<br>原 因                      |
|                    |                                                                                 | 市町村                                          | 遺跡番号                      |                        |                    |                                                                                                                                                                             |                                              |                                 |
| いしはらざわいせき<br>石原沢遺跡 | しずおかけんふくろいし<br>静岡県袋井市<br><br>いしはらざわ<br>村松431-12<br><br>433-5、212-2<br><br>212-5 | 22216                                        | 87-88                     | 34°<br>46'<br>42"      | 137°<br>56'<br>55" | (第1次調査)<br>19910902<br>↓<br>19920320<br>(第2次調査)<br>19951215<br>↓<br>19960331                                                                                                | (第1次調査)<br>約2,000㎡<br><br>(第2次調査)<br>約2,000㎡ | モ デ<br>ル 集<br>落 農<br>道 の<br>建 設 |
| 所収遺跡名              | 種 別                                                                             | 主な時代                                         | 主 な 遺 構                   | 主 な 遺 物                |                    | 特 記 事 項                                                                                                                                                                     |                                              |                                 |
| いしはらざわいせき<br>石原沢遺跡 | 集落跡<br>土器棺墓群<br>古 墳<br>集石遺構                                                     | 弥生時代<br>古墳時代<br>中世<br>近世                     | 住居跡・溝 跡<br>柱穴跡、土 壙<br>古 墳 | 弥生土器<br>土 師 器<br>埴 輪 片 |                    | 弥生時代中期後葉～後期<br>前葉の高地性集落跡として<br>登録されている掛川市金鈴<br>原遺跡のつづきである。な<br>お、山間部では古墳の一部<br>と土器棺墓群の調査も行わ<br>れた。<br><br>平成3年度に第1次調査<br>が、平成7年度に第2次調<br>査が行われ、平成8年度に<br>発掘調査報告書が刊行され<br>た。 |                                              |                                 |

# 石 原 沢 遺 跡

( 遺 物 編 )

1997年3月

編集 静岡県袋井市新屋1-1-1  
袋井市教育委員会

印刷 静岡県榛原郡吉田町片岡2210  
松本印刷株式会社